

第2回GP+1セミナーを開催

感染症テーマに豪華講師陣

全国から50人超参加 おおいに学び・交流

4月22日に「GP+1セミナー」を開催しました。本企画は昨年（2017年）に続き2回目です。「GP+1」とは「General practitioner（総合診療医）」の略、「+1」はひとつの得意・専門分野を持つことを意味しています。耳原総合病院では、総合的に診療をしながら何かひとつ得意分野を持つことや、専門領域を極めながら総合的な力を身につけることを大切にしたいとの思いから、「GP+1」を医師養成の合言葉にしています。

今回も感染症をテーマに成田雅先生（沖縄県立中部病院感染症内科）、津覇美史先生（咲花病院総合内科・感染症内科）、笠原敬先生（奈良県立医科大学感染症セミナー）の講師陣をお招きしました。どの講演にも医師として患者さんの訴えにしっかりと耳を傾けることや診察の大切さ、入院患者さんのもとへ足を運ぶことの大切さや、考えることの大切さがメッセージとして込められており、普段の診療や教育で大切にしていることに確信が持てる内容でした。3年目研修医の後藤剛医師による症例検討会も非常に盛り上がり、



ディスカッションなどで会場は盛り上がりました

大変勉強になるものでした。参加者54人のうち半数が同仁会以外からの参加で、大いに交流ができ、刺激を受けて、お互いを高めあうことができる企画となりました。また、耳原総合病院のこと

を知ってもらったいい機会にもなりました。
（耳原総合病院医局事務課 課長 吉本 和人）

できあがりをお楽しみに。

耳原総合病院みみはらホールにてワークショップ（3月31日）



集まった種は造形作家・福家真紀氏の手で造形作品に…その後作り手が想いを寄せる人の元へ飛んでゆきます



アート企画

あたげ あたげ とんでゆけ

—前編—

トーク

耳原総合病院単独で行って来た「ホスピタル・アート」も、もともと迎れば1000円のカンパの実費診療所のルーツからでした。医療・福祉と建物を隔てても、医療者・患者・家族と立場を隔てても、私たちのルーツ（物語）がそれぞれのフィールドをつなげていきます。『アートもその一翼を担うことができれば…』と思いついておりました。

不思議な引き合わせ

実現できるのは数年先だろう、とぼんやりとした構想の中、今回のプロジェクトは導かれるように企画を進めていくことができました。協力したいと申し出てくださった方が現れたのです。造形作家の福家真紀氏と泉南市にある山陽製紙様様の存在。まさかのご支援をいただくことになりました。そ

れも私たちの理念に深く共鳴くださっての厚意。トントントン…と話が進んで行きました。

いろ、かたち

目にみえない想いを創っていくのに、私はたんぼの綿毛を思い浮かべました。白いピュアな色は、無医村の時代にこの地で医療を行った医師や看護師たちの信念。ふわふわな形は、住民の方がこれまで支えてくださった優しく懐深い関係。このふたつが合わさ

って私たちが今もこの地に咲いているのなら、たんぼほど、ふさわしいモチーフはないと思いました。

やはり、優しく、懐深い

患者さんやスタッフ、地域の方を巻き込んで、制作を進める中で感じたのは「やはり、優しく、懐深い」。芸術なんて、どれだけの人が馴染みあるでしょうか。「なんかよつ分からんけど…」

「つき合ってあげようか」そんな思いで参加くださった方も多かったです。にも関わらず思いきり楽しんでくださり、唯一無二の種が約40本仕上がりました。謎めいた企画を実際に楽しく意味ある時間に仕上げてくださいました。参加者の皆さま。この種がフロアによって造形作品になるのは、少し先のお楽しみ…また、ご報告したいと思います。
（耳原総合病院アートディレクター 室野 愛子）

ひまわりの家にてワークショップ（4月21日）



60年のあゆみ

耳原実費診療所創立60周年記念誌

いのち輝け未来へ

その5

第3章

要求に応え多面的に発展、規模・内容を充実

1972年～1981年

（前号のつづき）

医療機能・規模の充実をすすめた「新生耳原」

実費診療所の創設から22年、耳原病院へと規模を拡大してから20年を経て協和町近隣、そして堺市全域の住民にとってなくてはならない存在となった同仁会は、1970年代を迎えて、医療機能をさらに拡大・充実すべく1972年には第一次5ヶ年計画（創立20周年をめざす4大建設事業）、1976年から第二次5ヶ年計画に着手しました。



黒田一革新府政誕生、今村雄一大阪民医連会長と会談

鳳分院に関しては、結核病棟の廃止と人工透析導入（サテライト透析室）のための一部改造にとどまりました。

第二次5ヶ年計画

第二次5ヶ年計画は、「4大建設事業の内容は、「総合病院の鉄筋化」「南花田診療所の新築移転」「ひまわり認可保育所設立と看護師寮建設」「鳳分院の将来計画」です。

第一次5ヶ年計画

この計画に沿って、1972年9月南花田診療所が新築移転、共同保育「ひまわり保育園」は認可保育園となり、1974年7月に鳳南町に移転しました。また、1975年には総合病院内に「泉州高等看護学院」が開校、看護師寮は第二次5ヶ年計画に持ち越されました。

第二次5ヶ年計画は、「C T、シネアンギオ、R1などの積極的導入」「保険調剤薬局の開設」「同仁会会館建設と透析専門の老松診療所、看護師寮の併設」「別館建設とICU的機能を有する救急病棟の設置」「泉州看護専門学校の新築移転」「耳原旭ヶ丘会館の新築（鍼灸、歯科、夜間保育所の設立）」「鳳病院を新築移転しリハビリテーション機能を強化」など、投資額は30億円を超える大きな計画でした。職員数も1976年471名から5ヶ年で647名へと170名以上増加しました。（つづく）

※発行当時の原文のまま掲載しています。